

## 2025年度 辛立文化センター購入図書

	タイトル	著者	出版社	出版年	サイズ	ページ	内容
1	続 身の回りから人権を考える74のヒント	滋賀県農業協同組合中央会	解放出版社	2025	A5判	155	好評を得た『身の回りから人権を考える80のヒント』（2020年刊）の第2弾。差別やダイバーシティ、SDGs社会などの課題を、身の回りの出来事から読み解く人権問題の入門書。
2	学校とジェンダー「ふつう」って何？	山根真理 高橋靖子	学事出版	2025	A5判	198	本書は、教育関係者に向けて、学校（園・所）におけるジェンダーの課題を含め、「学校とジェンダー」に関する最新の学術動向と教育実践に関する基礎知識と基本的考え方を提供することを目的に企画された一冊。学校文化、セクハラ、性教育、制服、部活動、進路の指導など、教師が日々直面する教育実践の場面を通して、ジェンダー規範がいかにして再生産されているかを明らかにしている。
3	部落問題と向き合う若者たち2	内田龍史	解放出版社	2025	A5判	248	部落問題と向き合っている若者たちが、どのように部落問題と出会い、どのような経験をし、いまどう考えているのか。さまざまに生きる若者たちのインタビュー集・第二弾。
4	子どもの人権を尊重するって、どうするの？	神原文子	解放出版社	2025	四六判	224	子どもは大切といわれながら、虐待や体罰などの人権侵害は続いている。子どもの人権を尊重するには、おとなは具体的にどう考え、行動すればいいのかわかる。その役割を提起する。
5	ガッツせんべい —4コマまんが77選—	久保 敬	解放出版社	2025	A5判	104	月刊誌『ヒューマンライツ』に17年連載された4コマまんがから77選。再構成した。折々の出来事をユーモラスに描き肩ひじ張らずに人権を語る。
6	非認知能力の強化書	中山芳一	東京書籍	2025	四六判	143	自分を高める力、自分と向き合う力、他者とつながる力…など、AIにはないといわれる『非認知能力』育成の第一人者が、10代とZ世代に贈る、自ら『非認知能力』を鍛えるための書。
7	「しない」が子どもの自力を伸ばす	マイケリン・ドゥクレフ	築地書館	2025	四六判	394	マヤ、イヌイット、ハッザバといった伝統的な子育て文化を訪ね歩き、怒鳴らず・押し付けず・信頼と協力が満ちた育児の知恵に出会う。子どもを管理しすぎず、自立を促し、親も子ども心地よく過ごせるヒントが詰まった伝統的な子育て術とは。現代の育児にモヤモヤし自信を無くしている親に向けて書かれた一冊。
8	授業と学級社会づくり 人権を基調に	園田雅春	解放出版社	2025	四六判	229	「子どもの事実」「現場の事実」にこだわったエッセイ集。「やっぱり子どもってすごい！」「教師の仕事っていいもんだ！」という湧き上がる情念を多くの人たちと共有したい、増幅させたい、拡散もしたい。そのような思いでいっぱいの本。
9	つながる遊び パート2 ちやいるどネット大阪ブックレット	徳畑 等	解放出版社	2024	B5判	58	主に3歳から5歳を対象に、園などで心身を使って遊ぶための遊び集。地域や家庭で子どもどうしの遊びが少なくなっている今日こそ求められる1冊。
10	「戸籍」 人権の視点から考える	反差別国際運動（IMADR）	解放出版社	2023	A5判	154	日本の戸籍制度は、被差別部落など特定のマイノリティ集団への差別に加担してきた。本書ではこの戸籍制度を取り上げ、「人権の視点」からその問題点を探る。
11	部落差別解消推進法を学ぶ	奥田 均	解放出版社	2019	A5判	199	2016年12月に制定された部落差別解消推進法は、部落問題を考えるうえで実に優れたテキストである。問題意識を整理し、法律から部落問題を学ぶための入門書である。
12	道徳科の「授業革命」 人権を基軸に	園田雅春	解放出版社	2018	四六判	264	2018年4月から「特別の教科道徳」が小学校で開始された。政治的な導入を批判しつつ、人権を基軸に授業を再構築し、「考え、議論する道徳」をどう実現するかを提起する。

13	進めてみよう！人権ワークショップ型学習ー学びから行動へ	大阪府人権協会	解放出版社	2017	B5判	110	人権学習に求められるのは、人権についての理解を進めてその認識を深めるだけではなく、現実の偏見や差別、排除などの問題に気付くとともに、その解決に向けてどう行動するかについて具体的な方法を学び、考えていくこと。このためには、具体的な場面などを想定しながら、さまざまな情報をもとに参加者同士で話し合い、解決の方向を考えていくワークショップ型学習が有効。
14	大島青松園で生きたハンセン病回復者の人生の語り	近藤真紀子 大島青松園	風間書房	2015	A5判	555	差別や偏見を生む病に苦しむ人々を、社会はどのようにケアするのか。医療倫理はどうあるべきか。瀬戸内の孤島（大島）で、極限を生きてきた17名のハンセン病回復者の人生の語りを聴き、過酷な人生を賭して得た「英知」と「負の歴史」を学ぶ教訓の書。（近藤真紀子さん寄贈）